

第2回

交流しながらプログラムのアイデアを考えよう

(1) プログラム

日 時 | 7月8日（土） 10:00 ~ 12:00

会 場 | 深川高校1階 大会議室

内 容 | 交流しながらプログラムのアイデアを考えよう

- ・前回のふりかえりをした後、今年度連携している「深川高校国際協力ボランティア部」の活動紹介や、参加者同士が知りあうための交流を行いました。

タイムテーブル |

10:00 (05分) あいさつ

10:05 (20分) 本日の進め方、前回の振り返り

10:25 (20分) **【交流しよう！1 深川高校国際協力ボランティア部活動紹介】**
・どんな取り組みをしているのか、活動紹介。

10:45 (10分) ~休憩~

10:55 (45分) **【交流しよう！2 UD体験 | しゃべり場】**

・テーマは「初めての場所に行く時、どうしてる？」

●グループ内で自己紹介。

●テーマに沿って話す。誰かが話した内容について、質問したり、「私の場合は...」などと自分のことを伝えたりする。

11:40 (20分) **【発表】** (発表3分×5G) 《15分》

12:00 終了

(2) 交流しよう！1 深川高校国際協力ボランティア部活動紹介

●活動内容

- ・国際協力に関わる活動をすることを目標にしています。

フェアトレードの紅茶クッキーづくり

- ・紅茶の茶葉を使ったクッキーを100セット作り、フェアトレードについてまとめたプリントと一緒に配布し、校内で配布しました。<フェアトレード>とは、直訳すると「公平公正な貿易」という意味があり、発展途上国の原料や製品を適正価格で購入することで発展途上国の生活の改善などを促す活動です。

「羽田スマートシティ EXPO2022 秋」に参加

- ・羽田空港「空の日フェスティバル 2022」「羽田スマートシティ EXPO2022 秋」(大田区)に参加しました。これは、「先端技術」と「文化産業」を体感できるイベントです。
- ・今回は、「フォトモ(フォトとモデル=模型を合わせた造語で、写真を切って作る模型)」として、羽田空港を飛び立つ飛行機のフォトモづくりと、目では見えない「風」を体感できる風車を作るワークショップに取り組みました。

ボランティアアワードに参加

- ・ボランティアアワード(公益財団法人風に立つライオン基金主催の大会)に参加しました。
- ・昨年は近隣の科学技術高校と合同で、商店街活性化モデルの構築活動について発表しました。

その他

- ・江東区の猿江恩賜公園にて開催される「江東こどもまつり」に有志でスタッフとして活動しました。
- ・梅屋敷商店街の活性化の中間報告として、ポスターセッションを行いました。
- ・コロナウイルスの影響で、フェアトレードバレンタインでチョコレートを配ることができなかつたので、心を込めてポスター作りをしました。

Q&A

- Q 「フェアトレード」では紅茶などを購入するかと思いますが、どういう経路で購入するのですか。
- A 例えば、フェアトレードの紅茶やチョコレートを購入しますが、フェアトレードのマークがついているものは公平な取引をした証なのでそれを購入します。日本の大企業でも取り組んでいます。
- Q フェアトレードというと、外国のものを購入して、購入した国に利益があるようにすることかと思っていました。
- A 認識はそうですが、外国のお店から買ったわけではないです。日本の企業は、適正価格で仕入れている取り組みをしています。日本ではまだ認知度が低いので、身の回りの人たちに広めています。

(3) 交流しよう！2 しゃべり場 ~初めての場所に行く時、どうしてる？~

●体験のねらい

- ・日常生活でのあるシーン「初めての場所に行く時、どうしてる？」をテーマにして、自分はどんな行動をとるかをグループで出しあいます。
- ・「どうして私はそのような行動をとったのか」を自己自身で考えたり、聞いているメンバーが「どうして？」「なんで？」と投げかけて、深掘りします。
- ・他の人の行動の背景を理解し、共有することによって、お互いの違いに気づき、人それぞれ好み、特徴、立場など、多様な要因があることをじっくり考えてみます。

1 グループ

■アプリ活用

- ・方向音痴なので、地図アプリを確認する。重要な会議などがある場合は前日に下見をする。
- ・アプリがあれば大丈夫。人に聞くのは苦手。
- ・車で移動することが多く、車ナビを使う。仕事で地方都市に行くときなどは、事前のリサーチもする。プライベートは行きあたりばったりが多い。「におい」で安全かどうか判断する。
- ・アプリで10～15分前に着くように調べる。仕事の場合は打合せの場所をプリントアウトして持って行くこともある。

■事前に地図を確認

- ・事前に地図を確認。周辺のカフェも調べて、早めに行ってそこで過ごす。都内は地図アプリだが、旅先ではあえてマップ地図が楽しい。
- ・時間を調べる。まち歩きが好きで、美味しい飲食店にぶらりと入ることがある。そこでしか食べられないものを食べるのが好き。

■早めに行動

- ・人を待たせるのが好きではない。早め(30分前)に着くようにしている。

■車いす使用者の準備

- ・天気予報で雨が降らない日を(選べるなら)選ぶ。車いすの「手動」「電動」を考える。雨の場合は庇のある駅からタクシーに乗り換える。手動の時は上り坂がNGなので、ストリートビューで確認する。下り坂ルートを考えて「降りる駅」を考える。
→天気はたしかに気にするな、と思った。髪型にも影響する。
- ・ナビアプリの時間設定は役に立たない。乗り換えがあれば一駅につき15分は足す。
- ・地下鉄は、こちらのやり方を聞いてくれるこ

とが多い。JRにはない。

- ・トイレはデパートやホテルがよいので、それも考えに入れる。
- ・人に聞くこともある。地下で「上で雨は降っていますか？」と聞く。それによってカッパを着るかどうか判断する。
- ・エレベーターの場所を聞くこともある。だいたいの方向を理解してから、点字(誘導)ブロックを見ながら行くこともある。
- ・道を聞くときや車いすを押してもらう必要があるときは、人を選んでお願いする。地元っぽい人や、若い男女連れの男性に頼むと大抵は手伝ってくれる。
- ・サインを充実させる仕事もしてきたが、人に聞かなくなるな、とも思う。コミュニケーションが良いとは思うがサインの充実も必要だし、どう考えると良いかと思った。

→車いす使用者はそこまで調べるのかと感じた。

■道を訪ねる人

- ・聞こえにくさがある。駅は行けるので、駅に行つてまず交番を探す。
- ・聞く方が早いので、親切そうな人に聞く。自分は親切そうな人を見つけるのがうまい。なんとなく自分を見てくれる人、高校生や特に二人連れの女子高校生は教えてくれる。
- ・外国人から声かけられることもある。外国人の人はアイコンタクトをしてくれる。
- ・スーツケースを持っていると、見たり、見られたりがあって、話しかけやすい。
→聞くことが苦手な人もいるという話を聞いて、自分が聞いたり聞かれたり、という環境にいたことをあらためて思い出した。
- 今日の話を聞いて、機会があったら人に聞いて見ようと思った。
→スーツケースを持っている人や女性2人連れ

に聞く、カップルの男性に介助をお願いする、親切そうな人を見分けるのは自分を見てくれる人アイコンタクトが大事という話が面白かった。

■声かけについて

- ・日本と海外で、声のかけやすさの違いはある?
→海外では隣人と話さないと怪しまれる。
- 海外の方が話しやすい。海外だと、自分を見てくれる聞いてくれる人が多いように感じる。
- 海外だと、「どうしました?」と声をかけてくれるような気がする。
- 日本だと「断られたらどうしよう」と結果をまで考えてしまう。しくじってはいけない(恥ずかしい)と思ってしまう。
- ・聞くことは効率的。結局一番早い。
- ・直接のコミュニケーションには感情的なためらいがあるようだが、なぜSNSは発信できるの?
- SNSは誰にでもではなく、仲間向けに発信している。読める人を限定している。
- 共感につながる気がする。

■感想

- ・人の性格によっていろいろあるな、と思った。
- ・トイレマップというものがあるか?
- ある。しかし、トイレは緊急性が高いので、困ったら人に聞くと思う。
- ・コミュニケーションの大切さをあらためて感じた。

2グループ

■人に聞く

- ・出張の時は、行った先の知っている人に尋ねたり、旅行代理店に相談。
- ・転校が多く、すぐ人に話しかけるようにした結果、友達が増えた。ただ、初めての所に行くときはあまり人に聞かない。家族に頼ってしまう。
- ・スーパーでは自分で探すより聞く方が早い。
- ・スーパーで店員に尋ねて口で説明されても、場所がわからないことがある。売り場まで連れて行ってほしいが、高次脳機能障害で年齢も比較的若く、見た目では障害がわかりづらい。手助けしてほしくても気兼ねしてしまう。
- ・駅で駅員に行き方を尋ねても、説明者と尋ねる人で向きが違ったりして、わからないことが多い。

■事前に調べる

- ・今はナビソフトがあるので、住所や行き先の連絡先をメモしておき、道に迷った場合住所表示を手がかりにして探したり、わからないときは

行き先へ電話し、目の前に見えるものなどを伝えてたどり着くようにしている。

- ・Googleマップで事前に調べ、ランドマークや地形を把握しておく。
- ・家で調べているときわからっても、現地に行くと見つけられないことがある。
- ・家族で山登りに行った時、事前に調べたが思ったルートではなく、無事子どもたちと帰ることができるか、危険を感じたことがある。

■アプリ活用

- ・早めに出かけても、アプリが現在地を実際と異なる場所をポイントすることがあり、使えずイラライラすることがある。

■車いす使用者の準備

- ・車いすを使っているので、大きな駅は複雑なので事前に調べる。
- ・車いすで移動しやすいよう、車両にホームと車両の間をつなぐものがあるか、事前に調べる。
- ・急行や快速などしくみがわからないことがあるので、事前に乗換案内を調べる。
- ・車いすユーザーなので、多目的トイレの場所を事前に探している。

■時間に余裕を持って出かける

- ・心配性で、事前に調べるほか30分前にはつくようしている。
- ・30分では間に合わないこともあるので、もっと前に家を出るようにしている。

■災害時に備えて

- ・ふだんはコンタクトレンズだが、災害発生を考え、めがねを携行している。
- ・電動車いすを使っている。初めての場所での災害を想定し、そこから帰ってこられるかを常に意識し距離やバッテリー残量を気にしている。

■行き当たりばったりを楽しむ

- ・一人であえて行き先を調べず、新たな発見などを楽しむこともある。

■犬の散歩で覚える

- ・引っ越ししたときは、犬の散歩をしながら道などを覚えるようにしている。

■子ども連れ

- ・子どもが偏食だったので、旅行先で快適に過ごせるようにふりかけをいつも持つて行った。
- ・子どもが小さいときはおむつの替えなどいろいろ準備をしていて出かけていた。
- ・子どもが小さいときは急にトイレに行きたくな

る事があるので、事前にトイレや授乳場所を探しておいた。

■一回行ったことがあっても忘れてしまう

- ・年を重ねると一回行っても思い出せないことがあり、事前に調べている。出かけるのは大変でもそれを楽しめている。

■人とぶつかってしまうことがある

- ・脳内出血の影響で左半身不隨があり、左側が十分認知できず人にぶつかることがある。ふだんは左側によって歩くようにしている。

■人に尋ねられる

- ・就職を機に転居した土地で、高齢女性に道を尋ねられた。「わからない」と答えたところ、その女性はすぐ次の人に尋ねていた様子を見て「一人がダメでも次にいけばいいんだ。もっとハードルを下げればよいのだ」と気づいた。
- ・最近、人に声をかけづらい雰囲気、尋ねてほしくないオーラを感じる。知らない人から声をかけられても答えてはいけないなど、犯罪に巻き込まれることを恐れている風潮が影響していて、声をかけづらいのかも知れない。

3グループ

■子ども連れ

- ・子どもが小さい時はベビーカーを中心。Google マップを活用しエレベーターの場所・最短ルート・負担なく着くかを事前に調べた。
- ・駅の構内図を見ることがあった。特におむつがえの設備、誰でもトイレがあるかは確認。
- ・食事をしたいときは2通り：1. 店に入らずにお弁当、2. 店の場合は子連れオッケー、ベビーカー通りやすい、店員の態度を下調べした。下調べと実際が違い困ったことはあまりない。
- ・気を遣っていたので、周りの配慮（電車の中での気配りなど）に気付くことが多かった。
- ・水遊び場で子どもが遊ぶと服が汚れるので、タオルと着替えはもっていく。荷物を預けられるところを事前に探してから行く。
- ・周りを気にしそうで子どもから目を離してしまうことがあり、子どもから目を離さないように心掛けている。

■事前の下調べ

- ・昔は事前に調べて出かけることはなかった。
- ・大きな駅では乗り換えがわかりづらいため、事前に調べる。YouTube で動画をみて行き

方のイメージを頭に入れることもある。お店のSNS をみることもある。

- ・海外に7年住んでいた。物取りが多いなどの治安、野生動物が出るかなども調べた。
- ・車で移動する場合は、駐車場の場所や空き具合を事前に調べてから出かける。
- ・電車の時刻表は事前に調べおぼえておく。間違えて覚えてしまったことがあったので、念のため駅で時刻表や掲示板をみて確認する。
- ・目的地近くのカフェなどを事前に探す。支払い方法（キャッシュレスなど）も事前に調べる。

■電車の移動の困りごとや工夫

- ・小1と幼稚園の子どもがおり、乗り換えが大変なので車移動が多くなった。電車の時、工事のためエレベーターを使えないことがあった。
- ・電車を降りてから進行方向が分からぬ時は、まずは近い出口にでる（特に地下鉄は目印がないので地上に出ることが優先）。地上に出て携帯のマップを見ながらちょっと歩き、違う方向に行っているとわかったらもどる。

■早く行動

- ・予定1時間前には目的地につくようになっている。
- ・迷ってもいいように、早めに家を出る。

■聴覚障害者の困りごとや工夫

- ・電車はアナウンスが聞こないので、駅について駅名を探すか、いくつ目の駅で降りると確認してから乗るようにしている。
- ・電車内の案内は乗り換え情報もあり見やすい。
- ・混雑時に降りたいけど降りにくい時は、声をだせないので、リュックを前にもって歩いて歩いてという感じで出口まで行くことがある。
- ・盲ろう者の介助をする場合、事前にGoogle マップで調べる。しかし歩き出したら反対方向だったり、携帯受信が遅い時もあり困る。盲ろう者とのコミュニケーションは、触手話や指点字、手に字を書いて行う。
- ・携帯電話はバイブ強の設定。災害時にもバイブで知らせてもらう。ラインやメールに区や都や警察からくるものに事前登録している。

■人と一緒に行動

- ・初めての場所に行く時は双子の姉と一緒に行動することが多い。初めての模試の会場へ行く場合、携帯だと音が出てしまうので、公衆電話代をもっていく。

■その他

- ・最近は事件が多く怖いので、傘を持って外出。

- ・初めての場所でも迷わず行ける。
- ・地方から出てきたこともあり、ナビはあるけど東京の首都高が入り組んでいて難しい。

4グループ

■事前の下調べ

- ・スクリーンショットを撮っておき、すぐに取り出せるようにする。
- ・事前にストリートビューを見て道順を暗記。
- ・アプリナビは自分が向かう方向なので、必ずしも北とは限らず、向きを間違える時がある。
- ・アプリ地図で、絶対に違うだろう場所を示される時がある。
- ・駅周辺の地図と、ビル名の分かる、縮尺の違う2種類地図を用意する。
- ・アナログでないと分からないので、親に調べてもらったり駅にある地図を見る。
- ・スマホも一緒に持っていく。
- ・スクリーンショットがあってもまちに目印がないと難しい。森ビルのビル番号が役に立つ。トイレを借りることができる。

■人に聞く、交番を把握

- ・人に聞いても間違えもあるので、何人かに聞く。
- ・「すぐ」と言われても、人によって距離感が違う。
- ・目的地の人に事前に電話をして、目印を聞く。

■視覚障害者の準備

- ・目が見えないので、事前に頭にマップを作る。
- ・ガイドヘルパーと一緒にすると初めてでも安全。
- ・オリンピックの影響のためか、駅が工事されて以前と通路が変わったところが多い。
- ・観光協会に電話すると詳しく教えてくれる。
- ・空港は親切に教えてくれる。
- ・電車は、車両の位置と出口を確認。メトロは駅員が詳しい。初めての乗り換えは、駅に掲示されている「のりかえ便利マップ」が便利。
- ・音声案内から流れる言葉の使い方で、使いやすかったり使いにくかったりする。
- ・触地図は全部が分かるわけではない。

■まちの目印

- ・電線の中地化のためか、電柱に貼られていた住所表示がなくなったように感じる。
- ・まちの地図がバージョンアップしていない時がある。
- ・公衆電話の場所が目印になる。

- 若い世代には公衆電話を使えない人もいる。
- ・観光時は、現地の本屋でガイドブックを見る。

■その他

- ・心の病気だった時は、人混みを避けるために平日に移動していた。
- ・アルバイトであちこち移動していた時は、移動に慣れて道を記憶していた。

5グループ

■アプリ活用

- ・車いす用のアプリもあり、車いすでいけるルートを調べる。行けるかどうかかも大事だが、遠回りでも行きやすさを調べることが多い。
- ・見えない人用のアプリが最近はある。音声案内や、靴とアプリが連動していて間違うと震えて教えるなど、身体でわかるのは大事。
- ・アプリは、Yahoo、Googleなど。人によってはナビタイムを使う人もいる。

■交通手段いろいろ

- ・遠くても歩いて行ったり、都バスにのったりする。都バスは便利、1日券を使う。

■事前の下調べ

- ・昔は電車にエレベーターが無かった。あっても駅の端で不便。バリアフリーマップを見て、行きやすいように事前に考える。

■車いす使用者の移動

- ・駅のエレベーターの位置により、階段を歩ける人と違うルートで行かないといけない。
- ・電車は便利、伝えておけば駅員が迎えてくれる。
- ・電車より飛行機が便利。飛行機は配慮の必要な方を優先したり、職員専用や王族が通るような裏道を案内してくれる。
- ・できるだけ歩きたい。昔は100キロ歩いたり、目的地だけ決め知らない道も楽しんだ。

■視覚障害者の移動

- ・タクシーは乗車拒否や、わざと遠回りされたりする。昔は当たり前だったが今もある。
- ・二人乗り自転車が日本でも広がりそう。ガイドと一緒にタンデムで出かけたい。ガイドは若い人じゃないと体力的に大変か。
- ・相手に「どこまで来てくれるか？」を確認して、なるべく頼る。

■人に聞く

- ・地元の人に聞く。情報が新しい。